県中教育

随想

戻りつつある「日常」の風景

県中教育事務所長　齋藤　仁道

県中教育事務所に着任して三か月が経つ。通勤経路には、幼稚園や小学校があり、子どもたちを交通事故から守るため、登校指導を行う校長先生や地域の方々がいる。職場の警備員の方と挨拶を交わし、清々しい気持ちで一日が始まる。自分にとっては「新しい日常」である。

五月以降、管内の学校を訪問させていただいている。子どもたちが生き生きと授業に臨んでいる姿やマスクをはずして友達と校庭を走り回っている姿を見ると嬉しくなる。

直近の三年間は、コロナ禍によりこれまでの「日常」が大きく変わった。マスクを着用し友達との距離を保つなど制限のある学校生活、学校行事の中止や縮小、部活動の停止や大会の中止など、この期間は苦労と苦悩の連続だったと思う。五月八日から、新型コロナウイルス感染症は５類感染症に変更され、それに伴い社会の対応も変化しつつある。各学校においては、ウィズコロナ・アフターコロナに対応した学校経営に取り組まれ、これまでの「日常」に戻そうと尽力いただいており、学校関係の方々の努力には頭が下がる思いである。

一方、コロナ禍対応のため急激に進んだＧＩＧＡスクール構想のもとで学習を進めてきた子どもたちの姿も見られる。それぞれの学校で、各教科の目標を達成するために、端末を有効に使う授業が積極的に行われており、子どもたちの情報機器の活用能力は少しずつ向上してきている。

七月上旬、文部科学省は対話型ＡＩ「チャットＧＰＴ」の取扱いについて、小中高校向け指針を公表した。指針では、グループ学習で論点を補うなどの有効な活用法を示す一方、児童生徒が定期テスト等に使うのは不適切といった見解を示した。他のリスクとして情報漏えいや著作権侵害が挙げられ、学校での活用には時間がかかりそうである。

改めて思うことだが、学校生活は様々な人の支えがあって成り立っている。教職員や保護者の方々はもちろん、学校の教育活動に協力を惜しまない地域の方々などである。当たり前のように思える「日常」は本当に貴重である。

これから子どもたちが楽しみにしている夏休みが始まる。細心の注意は必要であるが、子どもたちには、戻りつつある「日常」の風景の中で、今しかできない体験を通して、心も身体も成長してもらいたい。

編集・発行
福島県教育庁
県中教育事務所

発行責任者
齋藤　仁道

編集協力
県中市町村教委連各支会
県中各地区小中学校長協議会

魅力いっぱい天栄村

天栄村教育委員会教育長　長場　壮夫

天栄村では、朝六時に天栄村民歌「伸びゆく天栄」のメロディが流れます。一日のスタートです。歌詞には村木の「松」「えんじゅ」、村花の「りんどう」、村鳥の「うぐいす」がでてきますが、現在天栄の三大名物は、「天栄米」、「天栄ヤーコン」、「天栄長ネギ」でマスコットも作られています。

天栄中では四月十三日に、添田勝幸村長による特別授業「ふるさと夢プロジェクト」が行われました。内容は、天栄村の魅力、村の少子化対策や地域の活性化への取組、天栄村の将来像の三つです。

私は残念ながら、今まで天栄村の学校に勤務したことはありませんが、村長の特別授業を受けて初めて分かったことがたくさんありました。

天栄村は、昭和三十年に牧本村、湯本村、大里村、広戸村の一部の四つの村が合併して天栄村となり、村の中心に位置するのが天栄山で、金を採掘していた金山だったことや広戸川が釈迦堂川の別名だということなどです。

天栄村の魅力は、泉質の異なる天栄温泉、岩瀬湯本温泉、二岐温泉、羽鳥湖温泉などがありますし、名水では、「涌井の清水」、「丸山の清水」、「後藤の清水」などがあります。お酒では「廣戸川」と「寿々乃井」が全国新酒鑑評会で金賞受賞酒として有名です。

道の駅も五月にリニューアルオープンした「季の里天栄」と「羽鳥湖高原」の二つがあり、地元の新鮮な野菜や特産物が販売されています。さらに、高原リゾートゴルフ場として「太平洋クラブ白河リゾート」と「白河メドウゴルフ」の他、英国の雰囲気を感じながら英語を学べる「ブリティッシュヒルズ」や名馬がレースの前後に調整する「ノーザンファーム天栄」も見学してきました。

昨年十一月に念願の鳳坂トンネルが開通しました。小学校の統合問題もありますが、子どもたちに自分の夢の実現と天栄村への「愛村心」を育てていきたいと思っています。

子どもの読書活動優秀実践校としての取り組み

郡山市立守山小学校

はじめに

本校の図書館は、子どもたちの笑顔で溢れています。

日々子どもの感性を磨き、読書する楽しさと喜びを実感できる学校図書館を目指して取り組んでまいりました。その活動が評価され、この度、子どもの読書活動優秀実践校として文部科学大臣表彰を受賞いたしました。本校での取組の一端をご紹介します。

①参加・体験型の図書館

運動会後に全校児童が紅白に分かれて、読書量を競い合う「ライブラリーフェスタ」や、持久走記録会週間に「○分類の本を読もう」などのミッションをクリアしながらゴールを目指す「読書マラソン」等、学校行事に合わせて様々なイベントを企画しています。子どもたちが本に興味を持ち、自然に図書館に足が向かうように工夫しています。

②郷土愛を育む図書館

本校は、守山城跡内に設立されており、大安場古墳をはじめ、学区内には史跡が多く存在しています。そこで地域に関連した本を集めたコーナーを図書館に設置しています。創立一五〇周年に向けて、子どもたちが地域を知り、大切に思う心を育てています。

③学習・情報センターとして

本棚に児童が分かりやすいように分類番号を表示し、借りたい本がすぐに探せるように工夫しています。また、授業での積極的な図書館活用を促すため、学級担任と学校司書が連携して学習内容の関連図書を準備しています。

④各種教育活動との連携

図書館入口にＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）に関する図書を紹介する特設コーナーを設置し、分かりやすく学ぶことができる図書を選定して紹介しています。

また、ＳＤＧｓ（②飢餓をゼロ）に関連して、給食室とタイアップし、給食の残菜を少しでも減らすために、給食に関連する図書コーナーを設置するなど、教育活動の様々な場面で図書館と連携し、教育効果を高める工夫をしています。

⑤子どもたち自身が主体的に運営する図書館

図書委員会の児童が図書整理、図書の貸出を担当する当番活動を行っています。また、自ら本を選んで各クラスで「読み聞かせ」を行っています。児童の読書へのきっかけになることを目的として児童発案のイベントも積極的に取り入れています。

おわりに

子どもたちが、本に親しみ、自主的に読書活動を進めることができる図書館を目指して環境を整えてまいりました。情報を集め活用することのできる「学習の場」として、また、好きな本をゆったりと読みながら、安心して過ごすことのできる「心の居場所」として、そんな学校図書館を今後も運営してまいります。

ふくしまゼロカーボン宣言事業における取組について

玉川村立玉川中学校

本校の生徒が総合的な学習の時間で取り組んできた「ＳＤＧｓ」に関する取組が、令和四年度「ふくしまゼロカーボン宣言」事業において最優秀賞を受賞しました。ここでは、本校の主な取組について紹介させていただきます。

①節電・節水

「Ｌｅｔ，ｓ節電」の掲示を電源スイッチの脇に貼って節電を呼びかけたり、清掃時の十分間は自主的に消灯したりして節電に努めています。

②環境教育

食品ロスゼロを目標に掲げ、給食残菜をなくすためのポスターを作ったり、残菜調べを通した呼びかけを行ったりしています。

③環境保全活動

ゴミの減量化を訴えるポスターを作成して３Ｒを推進しています。また、廊下にリサイクルボックスを設置してゴミの減量化に努めています。

④気候変動への適応

本校の学区には阿武隈川が流れており、四年前の集中豪雨では大きな被害を受けました。本校では、自衛隊の協力のもと防災教室を実施し、災害時の対応について学んでいます。そして、地球温暖化を原因とした自然災害に対する意識を高めています。

⑤学校緑化推進

県や村の助成を受けながら学校緑化を推進しています。園芸が得意な用務員に指導を受け、花壇を整備しています。

ゼロカーボンやＳＤＧｓに関する取組をたくさん耳にしますが、大事なのは、「持続可能な取組になっていること」だと思います。これからも何か特別なことをするのではなく、普段の学校での学びを通して、いつの間にかゼロカーボンやＳＤＧｓに関する当たり前のレベルが上がっている、そんな持続可能な教育を目指していきたいと思っています。

初任者紹介～三か月を振り返って～

須賀川市立大東こども園

教諭　関根　未来

須賀川市立大東こども園に配属されて三年目を迎え、初めての幼稚園部で年長児の担任となりました。初めは自分に務まるだろうかという漠然とした不安を感じていましたが、園行事やクラス活動などの取組を通して、子どもたちと共に考えたり、作り上げたりすることの楽しさを感じ、今では充実した日々を過ごしています。

この三か月は、特に信頼関係を築くことを大切にしてきました。一人一人の気持ちに寄り添うことに難しさを感じることもありますが、少しずつ関係が築けてきて、笑顔溢れる表情を見たり、「先生大好き」「鬼ごっこに先生も絶対まざってね」などの嬉しい言葉をもらったりすることが、私自身の頑張る糧になっています。

多事多端な日々ですが、周りの先生方のサポートや保護者の皆様のご理解やご協力に感謝し、子どもたちと一緒に成長できるよう努め、実りのある一年にしたいです。

郡山市立小原田小学校

教諭　草野　祐人

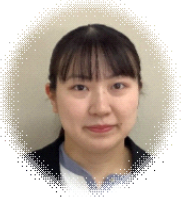
中学校での講師経験を経て、四月に小原田小学校に着任してから、早いもので三か月が過ぎようとしています。

思い返せばこの三か月は「怒涛」のスピードで進んでいきました。始業式、入学式などの年度始めの行事。多岐にわたる事務業務。五月に実施した運動会の準備。学級・学年の子どもたちとの関わり。息をつく暇がないほどでした。そのスピード感についていくことができない自分に苛立つ日々が続きました。

そのような日々の中で自分を支えてくださったのは周りの先生方でした。先生方のアドバイスを参考にトライ＆エラーを繰り返すうちに次第にできることが増えました。子どもたちともうまくコミュニケーションがとれるようになり、やりがいを感じています。

いまだに悩むことは多いですが、これからも先生方から学び続け、子どもたちと共に成長していきたいです。そして、子どもたちの笑顔が溢れる学校を目指して頑張っていきたいと思います。

石川町立石川中学校



教諭　佐藤由希菜

四月に石川町立石川中学校に着任し、早くも三か月が過ぎようとしています。まだまだ慣れないことばかりで不安もありますが、自分の相談を親身になって聞いてくださる先生方、元気に笑顔で生活する子どもたちのおかげで充実した毎日を過ごしています。

この三か月を振り返ると、毎日が新しい発見と学びの連続でした。授業、学級経営、全てが初めのことで、いざ子どもたちを目の前にすると伝えたいこともうまく伝えることができず、落ち込むこともありました。しかし、失敗から得るものは全て学びであり、それを確実に自分の力にできるよう、試行錯誤を重ねる日々です。また、落ち込んだ時に支えてくれるのは、毎日全力で勉強や部活動に打ち込む生徒の姿で、そのような子どもたちのために自分も成長しなければと気合いが入ります。

これからも、学び続ける気持ちを忘れずに、目の前にいる生徒のために自分には何ができるのか考え、生徒とともに成長していきたいです。

福島県立田村高等学校

教諭　黒江　雄治

四月に田村高校に着任してから三か月が過ぎました。進路指導部、渉外施設部を担当し、ウエイトリフティング部の顧問を任され、慌ただしく毎日が過ぎていき、時間の流れがとても速く感じます。

毎回の授業や部活動で生徒に何を伝えることができたか、生徒は何を学ぶことができたかを振り返り、試行錯誤を繰り返しながら自身のスキルアップに努める日々が続いています。特に、初任者研修で学んだ「生徒理解と生徒指導」を授業でどのように実践していけるかが自分の課題だと感じ、答えを見い出せるよう、今後とも同僚の先生方からのアドバイスや経験談などを糧にして、方法を模索していきたいと考えています。

母校に赴任ということで自身の青春時代を懐かしむと同時に、自分が教員として勤務していることを感慨深く感じます。生徒が充実した高校生活を送り、立派な社会人として巣立っていくことができる一助となるよう職務に邁進していきたいと思います。

福島県立あぶくま支援学校

教諭　石井　蒼未

子どもたちとかかわっていると、毎日があっという間に過ぎていきます。あぶくま支援学校に着任してからの日々は、今までに経験がないほど目まぐるしいものでした。

四月は、子どもたちに出会えたうれしさでいっぱいでしたが、現在は、かかわる時間が増えるにつれ、うれしさと共に悩むことも増えてきました。失敗して落ち込むこともありますが、子どもたちの想いを受け取ったり、喜びや楽しさを共有できたりした瞬間はとてもうれしく、頑張ってよかったと心から思います。まるで子どもたちから小さなプレゼントをもらっているようです。悩みはつきませんが、子どもたちからもらう「小さなプレゼント」を糧に頑張ります。そして、目標である「子どもにとって良い先生」になるために、失敗を恐れず挑戦し、いつまでも子どもたちと共に成長していく教師でありたいと考えています。急がず、慌てず、挑戦し続けます。

県中教育事務所よりお知らせ

総務社会教育課
社会教育担当より

令和五年度 公民館訪問について

公民館における社会教育の充実や生涯学習の振興を図るため、公民館訪問を実施しています。県中域内では、三年に一度各公民館を訪問させていただいており、今年度は二十四館の訪問を予定しております。

現在までの訪問では、住民のニーズや地域の実態に応じた講座を設定し、充実した講座を運営している様子を拝見させていただいております。どの公民館も、館長を中心に、担当主事の創意工夫を生かした講座が実施されています。

訪問の中では、近隣諸学校との連携、子育て世代への支援、新しい地域人材の確保、DX化を生かした広報活動の充実や手続きの簡略化などについて、助言としてお話しさせていただいております。

県中域内の各公民館におきましては、「集い、学び、むすぶ」場として、これまで以上に重要な役割を果たし、豊かな活力ある地域社会の創造を推進できるよう、本所としても支援してまいります。

地域家庭教育推進県中地区ブロック会議について

県中教育事務所では家庭教育の推進のため、各地区PTA連合会代表者、学校支援者、地域の子どもたちに関わる諸団体の方々、家庭教育支援者、企業の代表者等十六名の方々を家庭教育推進委員として構成し、年二回県中ブロック会議を開催しております。

会議では、家庭教育の現状と課題を把握し、家庭教育の推進や地域教育力の向上を図るため、学校・家庭・地域が連携し、各地区で実践的な活動が展開できるよう話し合いを行っております。

第一回の会議を、六月十二日に開催し、須賀川市の『kokoyori』代表の熊田ひろみ氏より「みんなが集う居場所づくり」と題して、その取組についてお話しいただきました。後半は協議と情報交換を行い、特に本年度の重点である「支援の届きにくい家庭へ対し、アウトリーチ型支援につなげるための連携方法」についてたくさんの意見が出されました。

学校教育課管理担当より

教職員の服務規律の徹底と学校における事故防止について

令和四年度は、県内で十五名の教職員が懲戒処分を受けました。

不祥事根絶のため、次の点を再確認の上、各校の実態を踏まえた実効性のある取組をお願いいたします。

○冊子「信頼される学校づくりを職場の力で」について
・別冊資料のチェックシートの活用

○不祥事根絶に係る管理職としての取組について
・管理職を中心とした教職員間のコミュニケーションの活性化

○服務倫理委員会について
・常に新しい視点を取り入れての開催
・服務倫理推進員の積極的な活用
・地域住民、保護者等からの意見の取入れ

○学校事故防止について
・校舎内外の危険個所の確認
・児童生徒や教職員の負傷事故防止

県民の教職員への信頼は、学校教育の根幹をなすものです。一丸となって取り組んでいきましょう。

学校教育課指導担当より

『チーム学校』で全ての子どもの発達支援を

県中地区における不登校児童生徒数の急激な増加と学習機会の確保が大きな課題となっています。

昨年、十二年ぶりに『生徒指導提要』が改訂されました。目前の問題に対応する課題解決的な指導だけではなく、全ての児童生徒の発達を支える指導（発達支持的生徒指導・課題未然防止教育）を日常的に行い、問題の未然防止を図る積極的な生徒指導が大切であると示されています。

先生方には、日々の授業や行事等を通して全ての児童生徒への温かい声かけ、励まし、称賛、対話等、個と集団への働きかけをお願いします。また、児童生徒の少しの変化も見逃さず、困ったときに相談できる体制の整備と周知をお願いします。

不登校児童生徒の学習機会の確保の一例として、ICT機器等を活用し、実態に応じて、校内外で児童生徒と学級・学校を繋ぐ取組も増えてきています。引き続き、SCやSSW、関係機関等と連携し「チーム学校」での対応をお願いします。

ふくしま幼児教育研修センター事業について

第七次福島県総合教育計画施策一の実現に向け、今年度より、ふくしま幼児教育研修センター事業がスタートしました。

それに伴い、県では新たに「ふくしま幼児教育研修センター」を開所しました。当センターでは、

①県内の公立・私立すべての幼児教育施設の保育者を対象とした研修
②幼児教育の現状や課題等の調査・研究
③保育実践に関する情報の収集や実践事例集等の作成

を行い、幼児教育の質の向上や幼小連携の充実を目指します。

また、南相馬市、田村市、喜多方市を幼児教育充実・幼小連携推進モデル地区に指定し、実践研究を行います。年二回の公開保育の実施、公立小学校も含め、幼児教育と小学校教育の円滑な接続について研修等を進めていきます。モデル地区での取組については、成果とともに、実践の過程で生まれた課題も含めて全県に発信してまいります。

この事業を通して、幼児教育のより一層の充実と幼小の円滑な接続による学びの連続性の確立を図ってまいります。